

## ぐんま“いきいきファーマー”研修会を開催しました

令和4年1月18日（火）の「令和3年度ぐんま“いきいきファーマー”研修会」は、新型コロナウイルス感染症対策としてウェブ会議システムを利用した配信により実施いたしました（希望者には録画動画の視聴URLを配布：現在は公開終了）。

群馬県認定農業者連絡協議会 松井会長から主催者あいさつをいただき、株式会社ナチュラルアート 代表取締役 鈴木 誠 様に「（株）ナチュラルアートの成長の歩み、今後の戦略について 流通・消費の最新動向を踏まえた販売戦略について」と題してご講演いただきました。

### 講演の主な内容

#### 創立～コロナ禍

- ・銀行を退社し農畜産物の生産・加工・販売を手掛ける（株）ナチュラルアートを創立。農家との提携や破綻した農場の買収により事業を拡大した。
- ・本社は赤坂。令和2年にオープンした「赤坂邸」ではコロナで行き場を失った食材を使った料理を提供している。
- ・令和3年9月末の緊急事態宣言解除後も客足は伸びていない。テレワークの推進によりランチを食べに出る人や、仕事帰りの一杯を飲む人が減っている。

#### 地産地消と「売れるもの」について

- ・国は地域活性化などの面から道の駅の増設を目指していて、地産地消がより進むと予想される。
- ・地元スーパーをよく観察すると県外産しか置いていない野菜があることに気付く。地元での需要があるのに県内の供給が足りていないということ。
- ・「売れるもの」は「欲しい人がいるのに足りていないもの」。今あるものを売るより「売れるもの」を作るほうがよい（マーケットイン）。地産地消の流れにも乗れる。

#### 群馬県の「狙い目」

- ・サツマイモは海外でも人気広がっていて需要が増えている一方で、全国的に基腐病が広がり供給が減っている。
- ・主食用米の作付け転換に飼料用トウモロコシはどうか。海外産は高騰しているため、畜産も盛んな群馬県では需要が高く耕畜連携にも繋がると思う。
- ・中国が大規模でマーケットを広げている作物は需要過多に注意が必要だが、それ以外で輸入に頼っている作物の国内生産が狙い目。例としてゴマや山椒など。

- ・群馬県産の食材が7割を占めるスーパーを作ったらどうか。知事が地産地消を積極的に進めていくことを期待している。
- ・埼玉県道の駅では売れ残ったものを業者が買って大宮駅で販売するモデルを取り入れている。群馬県でも生産者が手を組んで同様のモデルを導入すると良いと思う。

## 問い合わせ先

- ・群馬県担い手育成総合支援協議会事務局  
〒371-0854 前橋市大渡町一丁目10-7（群馬県公社ビル5階）  
TEL 027-280-6171 FAX 027-255-6461
- ・群馬県農業協同組合中央会 担い手支援部  
TEL 027-220-2028 FAX 027-220-2024
- ・群馬県農政部農業構造政策課  
TEL 027-226-3024 FAX 027-225-0096